

2022年10月19日

各 位

大阪中小企業投資育成株式会社
代表取締役社長 小林 利典
(大阪市北区中之島3-3-23)

投資先企業景況アンケート結果の発表

下記の通り、当社投資先企業に対して景況アンケートを実施いたしました。
結果については次頁以下をご覧ください。

調 査 時 点 : 2022年9月中旬

調査対象先 : 当社投資先企業1,134社

回 答 数 : 610社

回 収 率 : 53.8%

◇本発表に関するお問い合わせ先 事業ソリューション部 福山 裕人 電 話 : 06-6459-1700 メー ル : pr@sbic-wj.co.jp

各指標とも3期連続して改善するも利益は足踏み

投資先企業の2022年度第2四半期景況アンケートによると、2022年7～9月期の売上実績、業況判断実績、利益実績の各D.I.は揃って改善した。次期も、経済活動再開の流れに期待は持てるものの、利上げによる欧米の景気後退、国内での冬場の電力不足への警戒感根強く、原材料・エネルギー価格のさらなる上昇によって利益面では厳しい状況が続く模様だ。

売上及び利益実績・業況判断のD.I. (前年同期比) の推移



利益実績の増減割合(前年同期比) の推移



① 2022年7～9月期の売り上げ実績D.I. (増収企業割合-減収企業割合)は前期の16.9から20.6へ、利益実績D.I. (増益企業割合-減益企業割合)は▲4.6から▲3.8へ、業況判断実績D.I. (好転企業割合-悪化企業割合)は7.6から7.9となった。

② 各指標とも小幅ながら3期連続して改善した。売上実績については、販売価格の引き上げ等によって価格転嫁が進んだ結果、前期比3.7ポイントの改善となった。ただ、利益実績については、依然マイナス圏にとどまっており、足踏み状態にある。資源高と円安を背景とした原材料高が重荷となって、利益が追いつかない状況に陥っているとみられる。

③ 利益実績D.I.を業種別推移表で見ると、2022年7～9月は、電気機器、卸売がプラスに転じたものの、食料品、機械、サービス他がマイナスに転じて8業種がマイナス圏になっている。

④ 2022年10～12月の見通しD.I.は、2022年7～9月期の売上実績D.I.が20.6から見通し14.7へ、利益実績D.I.が▲3.8から見通し▲9.0へ、業況判断D.I.が7.9から見通し2.7となり、いずれも悪化を見込んでいる。また、利益実績の増減割合で見ると、増益を見通す企業は5.4ポイント減少の20.8へ低下し、減益を見通す企業は0.2ポイント減少の29.3へ低下した。

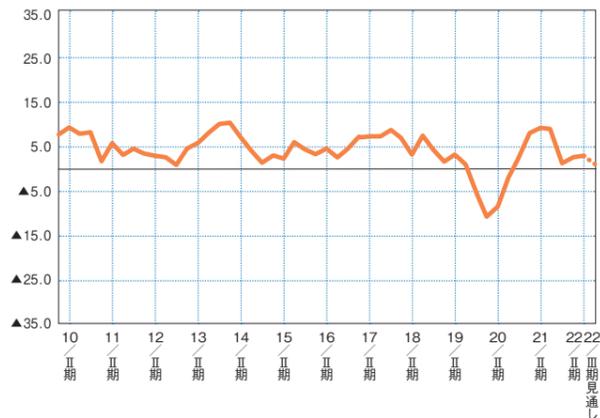
半導体不足など供給制約の緩和や新型コロナウイルスの感染縮小による経済活動の再開に期待は持てるものの、利上げに

よる欧米の景気後退、国内での冬場の電力不足への警戒感根強く、原材料・エネルギー価格のさらなる上昇によって利益面では厳しい状況が続く模様だ。

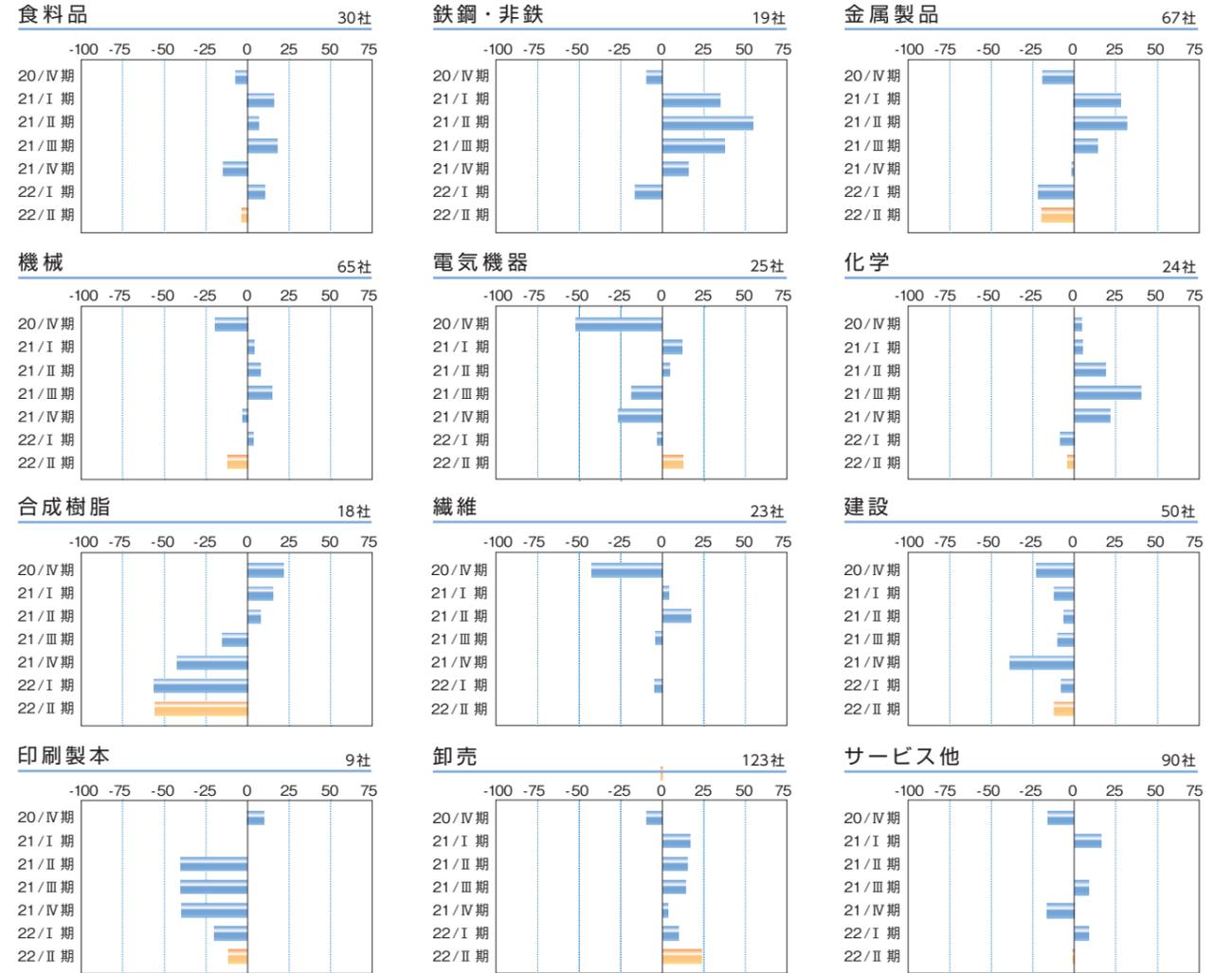
⑤ なお、9月調査の日銀短観によると、急速に進んだ円安や原材料のコスト上昇が景況感を悪化させ、大企業製造業は3四半期連続で悪化した。大企業非製造業は新型コロナウイルスの影響が緩和したことから2四半期連続で改善した。中小企業は製造業・非製造業ともに横ばいに推移している。

供給制約の緩和と新型コロナウイルスの感染縮小による経済活動の再開に期待はあるものの、原材料・エネルギー高の継続により、中小企業にとって利益の確保が難しい状況が続くことが予想される。

資金繰り実績のD.I. (前年同期比) の推移

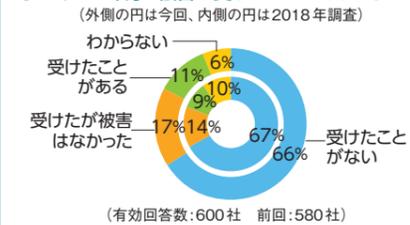


主要業種別利益実績のD.I. (前年同期比) の推移



IT活用リスク・サイバー攻撃についてのアンケート結果

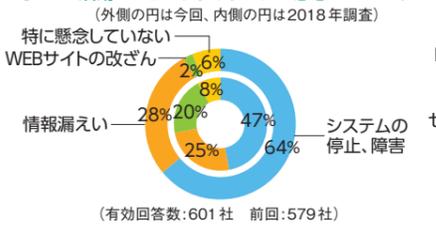
●サイバー攻撃・被害を受けたことがありますか



近年、企業が有する個人情報や重要な技術情報等を狙うサイバー攻撃は増加傾向にあり、特定の組織を狙う標的型攻撃を中心としてその手口が巧妙化しています。系列の自動車部品メーカーがサイバー攻撃を受け、自動車メーカー本体の国内工場が停止する事件もありました。大企業のみならずサプライチェーンを構成する中小企業においてもサイバー攻撃の脅威にさらされています。そこで今回は、企業のIT活用リスク・サイバー攻撃についてのアンケートを実施しました。

サイバー攻撃・被害を受けたことがあるかについては、「受けたことがある」11%

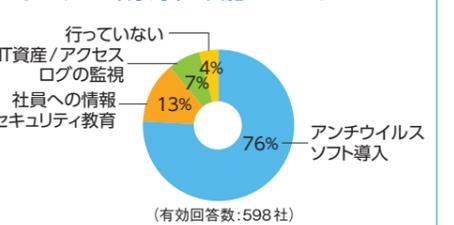
●ITの活用で、どのようなリスクを懸念していますか



(前回調査時9%)「受けたが被害はなかった」17%(同14%)、「受けたことがない」66%(同67%)、「わからない」6%(同10%)となりました。前回同様「サイバー攻撃・被害を受けたことがない」企業が3分の2を占めていますが、「受けたことがある」「受けたが被害はなかった」を合わせると全体の4分の1強が何らかの攻撃を受けていることになります。

ITの活用でどのようなリスクを懸念しているかについては、「システムの停止、障害」64%(前回調査時47%)、「情報漏えい」28%(同25%)、「WEBサイトの改ざん」2%(同20%)、「特に懸念していない」

●サイバー攻撃対策を実施していますか



6%(同8%)となりました。「システムの停止、障害」が前回調査時から大幅に増加し、日常業務に直接支障をきたすリスクへの懸念が高まっています。サイバー攻撃対策を実施しているかについては、「アンチウイルスソフト導入」76%、「社員への情報セキュリティ教育」13%、「IT資産/アクセスログの監視」7%、「行っていない」4%となっています。8割近くの企業でアンチウイルスソフトが導入されていますが、今後もう一段の対策が求められそうです。ご協力ありがとうございました。